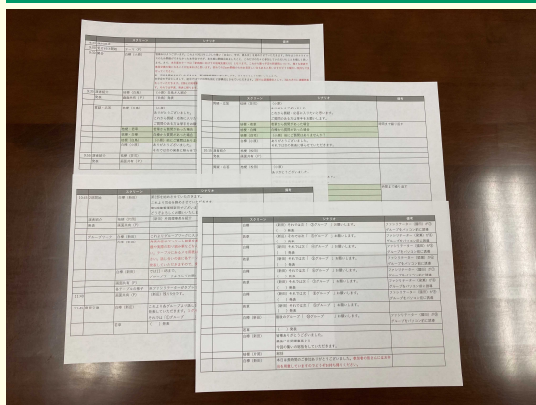


うえなえ

Vol.403 2021.12

2021年こぶしの集い 出会い、学び、語る会

昨年、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった法人内学会が、今年は感染対策を講じた上で11月27日（土）苫小牧市内のホテルで行われました。今号では開催に向けて取り組みから当日の様子までを研修委員に報告してもらいました。



研修委員会が作成したシナリオ

今回の院内学会は、2年後の新病院移転に向けて未来の病院像を考えるきっかけにしたいと思い「新病院に向けての地域支援とは」とテーマを掲げ開催しました。日々の業務の中、職員が一同に会して話し合う機会はなかなか持てないということもあり、職員同士がざくばらんに新病院にむけての現状の課題や展望など自由に語り合う会にしたいと考えました。

演題発表の第1部と片岡理事長による新病院の説明と各部署でのグループワークの第2部で構成され、参加者も65名と沢山の方に参加していただく事ができました。白鳥作業療法士が、病棟と協業したリハビリテーションの実践報告、荘司師長が多職種連携を円滑に行うための病棟カンファレンスの取り組み、松田精神保健福祉士からはコロナ禍の外来患者層の変化について

発表がありました。第2部では事前に職員から募った新病院への質問に対して片岡理事長に回答してもらい、それを参考に各部署で新病院に向けて現状の課題や実際の取り組みなどを話し合ってもらいました。片岡理事長からは今後の精神科医療の動向も踏まえ、時代に則した精神科として機能していけるようみんなで作り上げていきたいという思いが伝えられました。グループワークでは慣れていない職員が多いので盛り上がるのか心配でしたが、実際に始めてみると活発に意見交換がなされており、時間が足りなかったほどでした。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で実施する事が出来なかった法人内学会でしたが、今年は密を避けるために会場を3つに分け、Web会議システムZoomを利用したハイブリッドでの実施となりました。実際に会場に集まったの研修会やWeb会議システムのみを使った研修会の経験はあっても、ハイブリッドでの経験は無かったため、まず研修委員会では、3つの会場をどの様に繋ぎ、配信するかに取り組みました。現地に行き、音声ハウリングしないかや発表者・司会者・質問者はそれぞれどこにいて、どのカメラで写すかなどを確認し、画像の様なシナリオや配置図を作成しました。リハーサルでは委員が気付いたことを言い、シナリオを何度か修正し本番に備えましたが、当日は想定外の事が多々あり、初めての事に取り組むことの難しさを実感しました。

今回は今までとは違い、一から考えなくてはならず、準備にとっても時間がかかりました。ですが、いつもより委員一人一人が準備に関わり、意見を出すことができ、貴重な機会になったのではないかと思います。来年の法人内学会がどのような形になるかはわかりませんが、この経験を生かしてより充実した研修に出来ればと思っております。



上：画面越しに職員の質問に答える理事長
下：参加者用会場の様子



苫小牧東包括支援センター
認知症地域支援推進員
伊藤 靖代さん

広報委員：伊藤さんの略歴や現在のお仕事について教えてください。

伊藤さん：現在の職場には平成23年からおります。元々、高校生からボランティアをしており短大の社会福祉学科を経て特別養護老人ホームなど高齢者福祉の現場で働いてきました。結婚・出産を機に10年程お休みしていたのですが、その後通所リハビリや訪問介護等で働き現在に至っています。現在の職場になってから「社会福祉士」の資格を取得し、平成27年から「認知症地域支援推進員」（中央・明野・東包括を担当）をしています。地域包括支援センターでは、高齢者の方の①総合相談や②介護予防③包括的・継続的ケアマネジメント④権利擁護⑤地域ケア会議の開催等の5つの柱の機能を持っています。特に、私は「認知症地域支援推進員」として、福祉教育や普及啓発活動、多職種連携に力を入れており、市内の小・中・高校で「認知症サポーター養成講座」を実施したり、今年の「介護の日」に合わせてイオンで「介護男子」の写真展を開催したり月に1回「とままちカフェ」という関係者の勉強会などを実施しています。

広報委員：小島さんからの質問で「65歳という年齢を機に「障がい」から「介護」福祉サービスに切り替わってしまうという現行の制度ですが、その中で戸惑いやご苦労されていることはありませんか？」とあります。よろしくお願いします。

伊藤さん：その通りでとても戸惑っていますし難しい問題だと思っています。これまでの「障がい」福祉サービスから「介護」福祉サービスに移行するにあたり、利用者さんご本人にとって馴染むのか、サービスが合っているのかを考えてしまいます。制度上、仕方がないとはいえもう少し柔軟に運用できないだろうかと考えてしまいます。例えば、「障がい」と「介護」の担当スタッフが一時期同時に担当してスライド方式で移行していくというのはどうでしょうか？これについては、「連携」も含めて関係者の皆さんとも話し合っていきたいと思います。

広報委員：伊藤さんにとって関係機関との「連携」というのはどのように考えられていますか？

伊藤さん：私たちの地域は約5600人の高齢者の方を対象としており、元気な方や支援が必要な方など様々です。また、上記の機能や事業を展開しているため一機関だけでは対応することは難しく様々な機関に助けてもらわないとやっていけません。そのためにも、各機関の「どんな事をしているのか」といった機能や役割、支援者の方の「どう相談したらいいのか」など知っていることがとても大切だと考えています。

広報委員：今後どのような「連携」ができればいいとお考えですか？

伊藤さん：私は認知症の高齢者の方の支援に関心があるため、認知症と診断された後の生活をご本人が住みやすく生活するにはどうしたらいいかを考えています。なので、単に介護福祉サービスを利用するに留まらずご本人がより社会活動に参加できるように「ピアサポート」活動にも取り組んでいきたいというのが夢ですね。こうした想いを共有したり一緒に取り組んでいただける機関や支援者の方々とさらにつながっていききたいと思っています。

広報委員：最後に苫小牧市医療介護連携センターの本間さんへの質問をお願いします。

伊藤さん：先日、往診の件でとても助けていただきました。今後、内科以外の他科の往診や仕組み作りをお願いしたいのですが…。

広報委員：伊藤さん、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



インタビューを
受ける伊藤さん



北海道は自然が豊かで、車で出かけていると観光地でなくともまるで絵画のような風景に出会うことがある。

例えば水田に水を張る頃、晴れていれば日没間近の時間帯は空へ橙色から紫色のグラデーションがかかり、その色合いの中に

月がクッキリと浮かび、水を張った水田に映り込むのである。周囲に街灯など明かりがあまり多くないため、木々や畦道が黒く影のように見え、美しい切り絵のような景色になる。

これからの雪の季節には、雪の積もった木々のトンネルを潜るような景色が見える道路があり、日中の澄んだ空の下で白と石灰色などの寒色の色合いが綺麗で、冬には少しわくわくしながら数十秒ほどで通り過ぎていく。最近交通整備が進み、新しい道路ができたりと便利になって農道を通ることはあまりなくなったが、冬になると思い出してはたまにその道を通る。

春の花々や秋の紅葉のような華やかさではないが、こういった心に残る風景を見つけると、少し嬉しい気持ちになる。



ちょうど1年ほど前にも、この画竜点睛で「コロナ禍」という言葉に言及していた。昨年から続いて、2021年、令和3年は、「新型コロナウイルス：COVID-19（コーヴィッドナインティーン）」により、慌ただしく過ぎ去った感がある。ただ、非常に幸いなことに今現在の日本国内は、小康状態と表現して良い状態にあるだろう。もちろん、いまだに世界的には大変な状況にあり、国内でも感染の再拡大がいつ起こるか予測し難い局面にはあるのだろうが、現時点ではウイルス側が「日本ではひろがりづらい」とさせる何らかの理由があるようだ。

冷凍保存などの管理を徹底したワクチンを、集団免疫を獲得しうる一定の国民に半年ほどの比較的短い期間で集中的に接種できたこと。感染者が激減しても手洗いや消毒を徹底していること。そして、マスクをしないで他者と接することをまだ許さない雰囲気があること。これらの「真面目で勤勉」である日本人の国民性がある程度影響しているのは確かだろうが、感染者が減っているその「答え」を教えてくれる人や専門機関は、国内はおろか世界中のどこにもまだないようなので、今後の研究が待たれるところである。

ところで、来年の西暦2022年、令和4年の干支は「寅」となる。さらに、甲、乙、丙、丁…の「十干（じゅっかん）」も合わせると、「壬（みずのえ）寅」という年になる。インターネットで、あるサイトをみると、“「壬」は「妊（にん・みごもる）」に通じ、陽気を下に妊（はら）む」。「寅」は「蟻（ミミズ）」に通じ、春の草木が生ずる」という意味がある。そのため「壬寅」は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージだそう。つまり、「これまでの冬が厳しいほど、華々しく生まれる年になる」と考えると、大きな期待をもって来年を迎えたい。

個人的には、（首里城が焼けた直後の）2019年、令和元年の11月に行った沖縄や、このコロナ禍が始まる直前の2020年、令和2年の1月以来行けていない東京ディズニーリゾートに来年は是非とも旅行をしたいと思っていることを強調しておき、今回のこの文章をしめることにする。

(T.No.)

お知らせ

◆ 外来休診のお知らせ ◆

社会医療法人こぶしでは12/28（火）～1/3（月）の間、外来診療が休診、巡回バスが下記の様に変更になります。ご利用されています皆様にはご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

	12/27 (月)	12/28 (火)	12/29 (水)	12/30 (木)	12/31 (金)	1/1 (土)	1/2 (日)	1/3 (月)	1/4 (火)
外 来	通常診療	休 診							通常診療
植苗巡回バス		日曜・祝日		土曜		日曜・祝日			
千歳巡回バス	通常運行	運 休		通常運行		運 休			通常運行
柳町巡回バス		運 休							

◆ 外来変更のお知らせ ◆

2022年1月11日（火）より植苗病院精神科
外来が下記のように変更になります。外来をご利用されている皆さまには大変ご不便をお掛けいたしますがよろしくお願いいたします。ご不明な点がございましたら植苗病院受付にご確認ください。

	月	火	水	木	金
午 前	片岡 川並	阿部	片岡 高木	高塚	河野
午 後	-	阿部	片岡	高塚	-

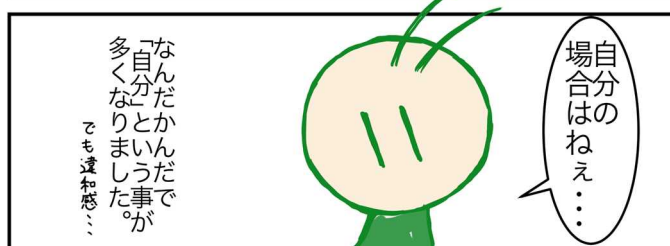
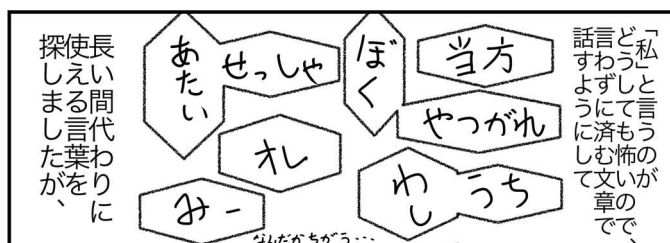
◆ 巡回バスの変更について ◆

12月1日（水）より巡回バスの停留所および停車時刻が変更になります。詳細は窓口にて配布しております巡回バス時刻表かホームページ（<http://www.uenae-hp.or.jp/bus2.pdf>）にてご確認ください。巡回バスをご利用されている皆様にはお手数をお掛けいたしますが、よろしくお願いいたします。

※Googleなどの検索サイトにて“植苗病院”で検索していただくと社会医療法人こぶしのホームページにたどり着けます

わわわたし

まりも



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こぶし広報委員会
苫小牧市字植苗52-2
TEL:0144-58-2314
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



食べるお茶見つかりました？

＜後記＞

今の内にという事で、先日お茶を使ったフランス料理を食べてきました。食べるお茶が料理のあちらこちらに隠れていて、食感や風味で突然現れ、とても楽しい食事でした。もちろんとっても美味しかったです！！

(K.S)